



平成 29 年度、後半スタートのご挨拶

早いもので、平成 29 年度も後半へ。4 月に新年度がスタートし、乳児保育から幼児期教育を包括する総合的な取り組みに関する日ごろの実践に関しまして、おかげさまで第一・第二ともに互いの個性を発揮しつつ、年齢ごと季節ごとに様々なカリキュラムや行事を遂行することができました。様々な価値感覚の存在する保護者ご家族の皆様が集う社会教育の場におきましては、多くのご理解とご協力あってこそ、学園の骨格が継承され、日々の育みを支えることができていると感じるものです。誠にありがとうございます。巷に目を向けてみますと、混乱する国際情勢、また、少子高齢化を基端とする経済社会への一層の懸念など危機を感じざるを得ない最中にあっても、日々子ども達の澁澂とした姿あふれる園の日々には大きな喜びや希望を感じるものであり、末永い幸せを願いたいでもあります。平素、本誌は主に外郭の関係者様などへの情報誌として作成し WEB にて公開している新聞ですが、ご紹介も兼ねまして保護者の皆様にもお配りさせて頂こうと思います。

さて、季節は夏が過ぎ去り、そして、いよいよ秋の足音も本格化。しかしながら、過ぎ去ってみますと、溢れる光の中で水と戯れ、澁澂とした姿で過ごしていた暑い夏もまた懐かしいものです。これからは木々も色づきはじめ、秋ならではの収穫や楽しみも広がりとつあり、新たな楽しみ広がる園内。今後も継続する様々な活動とともに、多彩な園生活を支えていきたいと思っています。この時期恒例ではありますが、園庭に目を向けてみますと、「頑張りたい！見てもらいたい！」そして、「しっかり聞く。集中する。時に我慢をし耐える。」そういった姿を狙いとした年長5歳児の組体操の練習風景が繰り広げられています。体力や性格など各々の個性がある中であっても、ひとりひとりがそういった強い気持ちで練習に取り組み、本番に挑む、という経験を通しての過程の中で育まれる我慢強さ、やり甲斐や達成感を感じて、またひとつ大きく育て欲しいという願いをもとに取り組ませて頂いていますが、練習の風景を見ていると、そういった子どもたちなりの眼差しを見ていると、未来に向かう階段を登っているのだと逞しく思えてくるもの。ただし子どもたちは、家庭とは離れた場所で頑張る反面、甘えたり我慢を言いたかったりと、園と家庭の間で心身のコントロールをするものです。そういった、子どもならではの甘えや我慢を言える、一番大きな支えがご家庭であり、その信頼を守り続けてあげることが、この先成長し、思春期や反抗期など迎えた時も、その過去の温かさは心に残り続けるものかと思えます。いつしか、「あれ？」と疑念を抱かれないよう真っ直ぐな態度で子どもに接する。かつ、いつも励ましてくれた、支えてくれたと、正しい教えを伝え続けてくれたとの信頼を育めるよう、大変な子育て期ではありますが、時に厳しくも温かく支えて頂きたいと思えます。

そういった狙いは、年長児のみならず、年齢ごと、あらゆる活動に対し狙いをもって組み込まれています。学級というチームが形成され、そのグループでの半年が過ぎ、今後は、またさらに、その輪の中で相乗効果として発揮されるものが多々生まれてくる年度の後半。今後も各園、子ども達の成長を楽しみに、保育や教務に関する主任など指導者の下繰り広げられる園生活に際しまして、様々なご理解とご協力、何卒宜しくお願い申し上げます。

次世代育成への取り組み

時折、園内でもお見掛けされているかもしれませんが、園では年間を通じて「次世代を担う教員保育者の養成の糧に」と、小中高から大学生に至るまでの職場体験やボランティアを受け入れています。それに加え本年度は、秋草学園短期大学・幼児教育学科1年生の授業、「保育内容(環境)」のひとつ、160 名の受け入れという大規模な園内授業を受け入れ、その際には学長である「北野大」先生自らもご訪問して下さい、様々な取り組み幼稚園と保育所、両認定こども園をご視察頂きました。

平素より視察や見学が多く、お客様に慣れた当園の子ども達。おそらく初めて現場に足を踏み入れる機会の学生さんみいらつしゃるかと思われそうですが、最初は少し硬かった表情も、園児達の手を振る姿に笑顔があふれ始め、「可愛い〜！」という声も盛んに。教育保育のリアルな様子に興味深く見る姿勢、そして、つぶさにメモを取る姿に対しまして、そんな未来の幼稚園教諭や保育士となるであろう学生さん達の姿は、とても嬉しく感じるものでもあります。

さて、今回の企画の願いは、高校を卒業し、幼稚園教諭や保育士を目指す学生さんたちは、様々な授業を通して学び、いずれは実習に行き、就職していきます。その一連の過程において、早期に現場を見学することは、その後の学習と現場のイメージをリアルに結びつけることができ、一層の能力取得に役立つのではないかと思います。また、昨今では、資格取得はしても、幼稚園や保育所、また、認定こども園への就職をしない学生さんも増えている話も聞きます。しかしながら、今後、さらにいっそう就学前教育保育の重要性に対する認識はますます高まっていくと感じ、それらを支える人材を育てることは、園としての使命のひとつだと感じるものです。そしてまた、教育保育の接続過程が的確に組み込まれた認定こども園への正しい理解も広げたいですからね。そのような狙いもあり、今般、秋草学園様のご提案を快くお受けさせて頂きました。

学生さんたちが帰ったのち、子ども達からは、「もうかえっちゃったの？」「あそびたかったのに！」「またこないの？」そんな言葉が溢れていました。園児にとっても、お客さんたちが来ると、「挨拶しなきゃ」「いいところ見せよう」など、心の中に育まれる良い効果もあることを常々感じています。ご多忙な中、未来を担う教育保育者育成の為に、この様な取り組みを積極的に企画くださいました秋草学園の先生方をはじめ、加えて、この場をお借りし、そんな趣旨を受け取り、準備や案内など快く受けて頂いたスタッフの皆様にも感謝を申し上げます。学生さんたちの心に、たくさんの花が咲いたと思います！ありがとうございました。



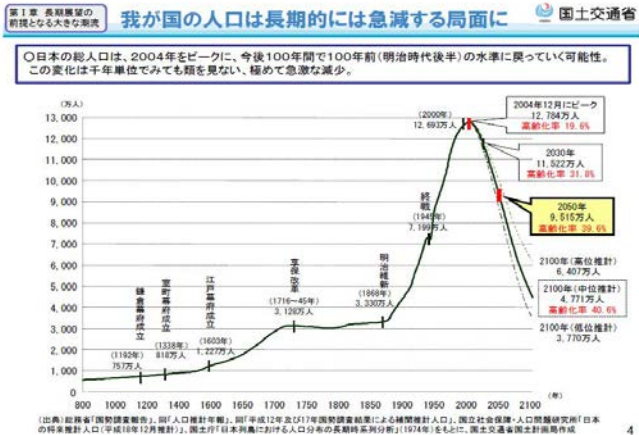
年間を通して、定期的に新「教育要領」や「保育指針」に関する意見交換や研究懇談を行っています。

代表挨拶にて

秋草学園短期大学の施設懇談会にて、来賓挨拶を仰せつかりました。ご挨拶の中でお話させて頂きましたのは、主に幼稚園や保育所を取り巻く少子化の実態を受け入れた制度活用や施策、また、その少子化がもたらす成人人口の減少に対する雇用対策においては、まず、魅力ある職としての園の運営体制、そして、時代背景を読み取ったうえでの新人指導に関するマネジメントの必要性など、お話させて頂きました。

就学前教育保育の分野は、この先の日本を支える上でも欠くことのできない重要分野です。各園が、様々な用意される制度政策をフルに活用し、その実践能力はもとより、就労に際しても魅力ある業種、つまりは、結婚や出産を経ても働き続けられ、かつ、スキルや能力活用の幅や可能性を広げていく努力をしなければ、やはり今後は女性も働きたい・働かざるを得ない社会に歩むことを予想しますと、業界自体の衰退にもつながりかねません。そういった意味で、様々な業種業界の中でも、「目指したい」という職業に位置付けるためには、最後は各園の取り組みに委ねられるところがあります。養成校様から引き継ぐ大切な人材を育てることはもちろん、さらには、教員保育士を目指す人材を増やすために、小中高生の受け入れなども積極的に言い、かつ、就労環境の整備に向けても、様々な工夫を進めていきたいとの旨をお話させて頂きました。

【えんちよう くらむ】出生数ついに 100 万人割れ。。



我々幼稚園や保育所の業界、つまりは、多くの単独園という事業体系の中において、「東村山むさしの」においては、いわゆる園長一人を頂点に機能する「鍋蓋」からの進化が難しかった業界の構造を見直し、理事長以下、学園長にあっては、内外を取り巻く広い役割を受け持ちつつ社会との親和を図り、また、現場の教育保育の実践分野では各々が経験と能力を持つベテランがいかになくその能力を発揮し、加えて、事務系や総務においても、各々がすべき役割と進化に向け業務分掌を把握し、安心安全な組織運営ならびに業界社会の振興を目指せるよう目指して来たのですが、そのおかげもあり、今こうして保育教育に関わる広い組織として発展することができた要因かと感じています。そして、その背景にて何よりの支えとなってきたのが、教職員の理解度はもちろん、保護者関係者すべての皆様のご理解とご協力ありきかと思うのです。時に、「なぜに、むさしのさんは、この少子化の中で確実に事業構築ができるのか」といった各方面からの問いに対しては、「教職員や保護者の皆様が有能なんでしょうね」とお答えさせて頂くのですが、おそらく「ご理解度と協力的」な水準が高いのだと感じます。園がどのようなスピードと確実性をもって発展できるかは、いわば、「保護者全体の能力・理解度・教養の水準」にも左右されるという構図も潜んでおり、その点におきましては、本当にむさしのの保護者の皆様の存在が誇りに感じられるものであり、感謝に尽きないところ。今後も、そのような支えの下で、様々な方向や立場からの見地での事業の組み立てに関しても、より高い能力発揮ができるよう模索していきたいと考えています。

むさしのの

が書く学園長

新聞

Vol.15



NEWS

「内閣の重要政策に関する内閣の事務を助けることを任務としている部署。」つまり、「内閣府子ども子育て本部」の皆様がご視察下さることになりました。待機児問題に関する施策、認定こども園の普及、幼保の資質向上、いかに人口減少、つまり少子化への歯止めを模索するか、幼稚園の2歳児の受け入れは?、そして、保育士幼稚園教諭不足の問題、などなど、内外からの視点において様々な策を立ててきた当園の歩みをご視察なさるのではと受け止めています。様々な立場から、今後の政策にもお役に立てるよう、ご協力させて頂きます。



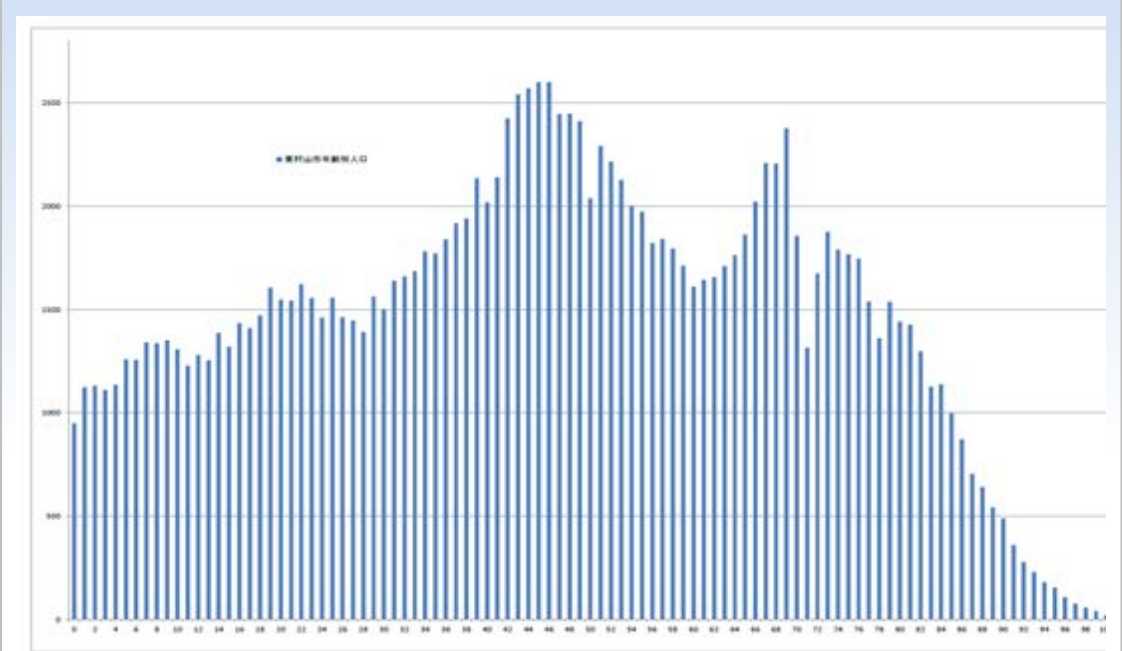
内閣府

Cabinet Office, Government of Japan

日々呟いている「東村山むさしの認定こども園」のフェイスブックページより、主な記事をご紹介します。

来年度の 1 歳児は激減!?(東村山市)

東村山市年齢別人口(平成 29 年 3 月 31 日現在)



ピークは 46 歳学園長世代！バブル崩壊、受験戦争、就職戦線、厳しかった時代を思い出します。人口の多かった団塊の世代の子ども、いわゆる第二次ベビーブームに再度増加に転じているのが正常。その、第二次ベビーブームの子どもの世代が増えていない異常な事態。ここで取り返すことの難しい歴史を作ってしまった。さらに、その少ない世代が親世代を迎えるこれからが、なお一層少子化の厳しき洗礼を受けるのではと懸念しています。

昨今では、0 歳の落ち込みが気になるころですね。0 歳と 1 歳の市内の人口差を調べてみましたところ、0 歳児は 1 歳児に比べ、約 170 人も少ないようです。一般的には、この数字がスライドしてきます。平成 30 年度の 1 歳児の待機児の数はどうなるのでしょうか？

“もしかしたら 3 号児も待機児童どころか欠員？”そんなあたりにも注目していると同時に、常にそういった事なども含め、学園の事業計画にも反映させ続けています。

幼稚園の未来は?どう次世代の支えとなり続けるか?

例えば、街の人が減ったり、お客さんが減るような中、集客率を上げること、物の売り上げを伸ばすことなど、そうそう現実的ではありません。そういう時代を迎えようとしている中、幼稚園であっても例外ではなく、園児数も一時の 380 名から 211 名へと推移しているように、少子化とともに幼稚園児も減り続けてきました。そこで、保育需要の拡大という流れを受け止め、早くからの「下山経営＋社会的ニーズへの対応」、そして、複合的な構造による「シェアリング」という発想にて、その厳しい時代を乗り越えようと歩んで参りました。

いよいよ来年度からは、幼稚園や体育館の改修に着手できる予定です。幼稚園舎の建て替えでは、次期教育要領の一層の効果的な実施、また、さらに多機能に子ども達の日常を支えられるよう狙いを込めて計画し、そして、体育館においても建て替えに伴う「多目的ホール化」などに向け計画を進めておりますが、歴史を歩んできたその思い出をどう残すか、そして、工事期間中であっても、多くの事例にみられるような駐車場や園庭の使用不可能などを、いかに回避し、できる限り犠牲にすることなく、逆に、その期間しかない「創造」を目の当たりにしつつ、どう子どもたちの夢や希望や楽しみを広げられるかなど、工夫に努めたいと思っています。

そのあたりの歩みや少子高齢化や人材難、採用難など一層厳しくなることが予想される近未来に対する施策に関する資料をなども「東村山むさしの資料のページ」にご紹介してあります。もしよろしければご覧になってみて下さいね。



筆者紹介/東村山むさしの認定こども園

	東村山むさしの幼稚園(第一・幼稚園型) 東村山むさしの保育園(第二・保育所型) 東村山むさしの STAFF 保育園(H30 開園) 学園長・野澤貴春	
	1971 年 1 月、市内廻田町に生まれる。 1983 年、東村山市立廻田小学校卒業。 1986 年、同、東村山第四中学校卒業。 1989 年、明星高校卒業。 1993 年、中央大学・法学部卒業。 1997 年、学校法人野澤学園勤務。 2008 年、事務長を経て園長へ就任。	2010 年 幼稚園型認定こども園認定取得(市内初) 2013 年 0 歳～5 歳児の「私立認定保育所」併設 幼保連携型認定取得(市内初) 2015 年 幼稚園型・保育所型、2 園認定へ移行

- 全国認定こども園協会 ●全日本私立幼稚園連合会 ●東村山市私立幼稚園連絡協議会 ●東京都私立幼稚園連合会／認定こども園委員 ●次世代幼保実践政策研究会／会長 ●東京都私立認定こども園協会／東村山市支部長 ●東村山市小学校評議員 ●東村山市こども子育て会議委員 ●東村山市公立保育所民間移管ガイドライン検討委員 ●東村山市防火管理研究会／副会長 ●元東村山市消防団第 5 分団部長・本団正旗手 ●中央大学法学部学員 ●中央大学学員体育会 ●星和会(明星学園同窓生ネットワーク) ●多摩ブルーグリーン賞経営部門奨励賞受賞 ●団体・協会・企業のセミナーや研修講師として活動中。

学園公開を開催しました。



両方が認定こども園の認定をクリアした幼稚園と保育施設を同時に解放。様々な工夫があった幼保各々の取り組みや特色をご覧頂ける就職転職希望者&関係者向けの学園公開を開催しました。当日はテレビの取材も行われるなど、その先進的な取り組みと発想に大反響を頂きました。

なお、「保護者の方にもぜひ」とのご意見も頂き、運動会の際に、各年齢児の取り組み発表などの資料を展示することにしました。(フェイスブックには UP 済み。)

取り組みや活動のご報告 ～関りこそアンテナ～

本年度も、各地の研修会にて講師のご依頼など頂き、子ども子育て支援新制度に関する制度説明や活用解釈、また、経営・運営・マネジメントにかかわる内容の講師を務めさせて頂いております。園内のみならず全国各地の幼稚園、そして、保育所の事業改革や振興は、すべての子どもとご家庭の権利にかかわる大切なお役目だと受け止め、お引き受けさせて頂いています。他にも、業界内外問わず、「どう園を活かすか、街に寄与するか」など、有識者会合はじめ乳幼児教育保育の振興と発展のために、子ども子育てに関わるすべての取り組みに関し、ご協力させて頂いておりますこと、ご報告させて頂きます。

内閣府子ども子育て本部様来園ご視察 / 2017.10.04
東村山市防火管理研究会(副会長) / 2017.10.03
全国信用金庫協会会長様ご来園 / 2017.10.03
東京都私立幼稚園連合会認定こども園委員会 / 2017.09.27
廻田町長寿を共に祝う会来賓 / 2017.09.24
秋草学園短期大学施設懇談会代表式辞 / 2017.09.15
JCOM TV 取材 / 2017.09.13
学園公開「Powered by 認定こども園」 / 2017.09.12～14
東京都私立幼稚園連合会研修講師 / 2017.09.12
東村山市私立幼稚園連絡協議会定例 / 2017.09.12
回田小学校学校評議員会 / 2017.09.08
葛飾区私立幼稚園連合会研修会講師 / 2017.08.29
園内幹部研修「園におけるリスクマネジメント」講師・浅野睦先生 / 2017.07.22
新教育要領「チームむさしの」意見交換会 / 2017.07.16
東京都私立幼稚園連合会認定こども園研修会(委員) / 2017.07.11～12
東村山私立幼稚園連絡協議会・園長会 / 2017.07.11
認定こども園ご視察(いわき市より) / 2017.06.30
東京都私立幼稚園連合会研修会 / 2017.06.29
経営者セミナーにて講演(認定こども園関連)丸の内 / 2017.06.20
新聞取材(なぜ都は認定こども園政策が遅れているのか) / 2017.06.19
経営者セミナーにて講演(認定こども園関連)大阪 / 2017.06.14
東村山私立幼稚園連絡協議会・P 連総会 / 2017.06.13
東京都私立幼稚園連合会認定こども園研修会(委員) / 2017.06.07
次世代幼保実践政策研究会例会(会長) / 2017.06.02
全国認定こども園協会トップセミナー / 2017.06.02～03
秋草学園短期大学・幼児教育学科「保育内容(環境)」授業受入 / 2017.05.25 & 06.01
園内全体研修「新教育要領・保育指針の読み込み」講師・無藤隆先生 / 2017.05.18
東村山私立幼稚園連絡協議会・総会(園長会議) / 2017.05.11
東京都私立幼稚園連合会認定こども園研修会(委員) / 2017.04.11
町田市よりご視察・懇談(都認定こども園委員会委員) / 2017.04.06
園内全体研修「園におけるリスクマネジメント」講師・浅野睦先生 / 2017.04.04

「もっとこまめに !もっと様子 を!」

「教育の可視化」をキーワードに試みているフェイスブックですが、他にもたくさん写真や記事を連ねています。PC のみならず携帯やスマホからも、閲覧だけならアカウント登録なしで見ることができ、登録しても足跡は付きませんので、ご覧になってみて下さい。(園ホームページにもリンクしてあります。)

■東村山むさしのサイト(新聞バックナンバーもこちらより)
<http://www.3.plala.or.jp/musasino/>

- 東村山むさしの「認定こども園 FB メインページ」
- 東村山むさしの「活動(教職員より)」
- 東村山むさしの「地域子育て支援」
- 東村山むさしの「連絡など」
- 東村山むさしの「資料など」
- 東村山むさしの「就職・実習・研修・ボランティア情報」
- 東村山むさしの「TV」(動画)
- 東村山むさしの「学園長のよこみち」

